



吉高人権だより

2020年 11月号

愛媛県立吉田高等学校 人権委員会発行

心の「道」

地理歴史・公民科 増田 奈桜

私は、幼い頃から書道をしています。現在も趣味の一つとして、続けています。おそらく、みなさんも小学校の授業などで一度は筆を手に取り、字を書いたことがあるでしょう。小学校の授業では「習字」といいますね。習字は、字を習うことです。では、「書道」は何でしょうか。書道とは、単に字を上手に書くことではありません。「書」とは「道」であるように、字を書く中で失敗を繰り返しながら自分の心と向き合い、自己表現するものでもあります。書道だけではなく、華道や茶道、柔道、剣道、弓道・・・、「道」がつく言葉はたくさんあります。「道」とは、技を向上させるだけではなく、自分の心と向き合い、人間としての成長をめざすという思いがあります。

字は、その時の心の状態や人間性を表します。例えば、焦っているときは早く書こうと字のバランスを気にしなくなりますが、丁寧に書こうとその瞬間と向き合えば、「とめ」、「はね」、「はらい」一つ一つを意識して、綺麗な字を書こうと心掛けませんか。字を書くことに例えましたが、自分自身との向き合い方も同じだと思います。焦っていると周りが見えなくなりがちですが、落ち着いて丁寧に過ごすと、周りがよく見えるようになってくるように、自分自身に丁寧に向き合えば、おのずと何気ない行動に表れます。また、自分のことだけではなく、何かに丁寧に向き合うということは、人に対しても丁寧に向き合えるのではないのでしょうか。自分の心と向き合うことで、人の心と向き合え、気持ちを汲み取り、思いやりを持って人に接することができるのではないのでしょうか。

みなさんは、自分の中に「道」はありますか。忙しい毎日の中、心のゆとりを見逃してしまいそうになりますが、一度立ち止まり、自分自身と向き合い、人と向き合い、己の「道」を極めてほしいと思います。



人権・同和教育ホームルーム活動

10月26日(月)に第2回人権・同和教育ホームルーム活動が行われました。1年生は「人権問題を考えるⅡ」、2年生は「人権の歴史Ⅱ」、3年生は「結婚差別と自らの関わり」というテーマで学習しました。また、今回は、愛媛県高等学校人権・同和教育研究指定校研究発表会であったため、県内各地から来校された多くの方々に授業を見ていただきました。

○今回のホームルーム活動では、ユニバーサルデザインやバリアフリーについて考えました。足が不自由な人や、手が不自由な人が使いにくいところについてしっかり考えることができました。スロープ作りでは友人と一緒に作りました。実際に作ってみないと分からないことが多かったのですがとても勉強になりました。(1年生)



文化祭

11月3日(火)に行われた文化祭で、人権委員会は「広めようシトラスリボンプロジェクト」のスライド発表と、吹奏楽部・声楽部と合同で手話ソング「上を向いて歩こう」のステージ発表をしました。また、化学教室ではオープンスペースキャッチさんの写真展とシトラスリボン作りの体験を行いました。人権委員の感想を紹介します。

○直前までとても緊張したけど楽しく手話できたと思います。終わった後の友だちからの評判もよかったです。シトラスリボンも思っていたよりもたくさんの方が来てくれて教えるのも大変だったけれど楽しかったです。(1年生)

○声楽部・吹奏楽部と合同で手話をしたり、シトラスリボン作りをしたり、今年の文化祭は今まで一番充実していたような気がしました。コロナが流行して例年通りにはできない部分も多かったけれど、コロナだからこそできたことができましたと思います。手話は少し緊張してしまっただけで、私たちの思いが全校生徒のみんなに届いていたらいいなと思います。(3年生)



人権・同和教育講演会

11月16日(月)に人権・同和教育講演会が行われました。今年度は、西予市のたんぼぼ読書会から3名の方にお越しいただき、「どう考え、どう生きるか」というテーマで講演をしていただきました。部落差別が身近な問題であり自分のこととして考えることが大切であること、また、友だちの大切さについて、一人一人が考え学ぶことができました。

